

# 第102回 日本児童文学学会 中部例会(9月例会)

## ご案内

第102回 日本児童文学学会中部例会を下記の通り開催いたします。お忙しいことと存じますが、ぜひご参加いただきますようご案内を申し上げます。

### 開催概要

日時：2023年9月9日（土） 14：00～16：30 終了予定  
場所：名古屋女子大学（名古屋市瑞穂区汐路町3-40）本館210教室  
地下鉄桜通線「瑞穂区役所」下車 1番出口 東へ

### 参加方法

- 本例会は対面形式で開催いたします。オンラインを併用したハイブリッド形式ではありませんので、上記の会場に直接お越しください。
- 例会開催中およびその前後におけるマスクの着用は任意とさせていただきます。
- 体調面にご不安のある方は、ご出席をお控えください。

### タイムテーブル

13：40～ 受付  
14：00～14：05 開会あいさつ  
14：05～14：45 実践報告 松永（幾本）幸代（飯田短期大学）  
（発表30分、質疑応答10分）  
14：45～14：55 休憩（10分）  
14：55～16：25 講演 豊嶋 利雄（しおり蒐集家、「中川運河しおりのアトリエ」企画・監修）  
16：25～16：30 閉会のあいさつ、諸連絡

### 実践報告

#### 子育て支援拠点における「おはなし会」の試み

松永（幾本）幸代（飯田短期大学）

勤務校では、学内に子育て支援拠点「わいわいひろば」が設置されている。専門のスタッフが常駐し、未就園の乳幼児と親が集うひろばである。幼児教育学科の学生も、様々な授業で学びの場を提供していただいております。短大教員も、「親子一緒に」あるいは「親向け」の講座を開き、子育て支援の一端を担っている。

筆者は2017年度より、この「わいわいひろば」で「子どもと絵本の素敵な出会いの会」を定期的に続けてきた。親子を対象に、絵本の読み聞かせを中心に、紙芝居、わらべうた等も取り入れ、プログラムを構成する。絵本を選ぶ観点や絵本とのつきあいかた、絵本から受け取るメッセージなどを挟み込みながら、一緒に絵本を楽しんでもらう時間になりたいと考えてきた。一緒に絵本を楽しんだ経験が、家庭でも絵本を開くことにつながっていくと考えるからである。

今回の報告では、これまでの取り組みを振り返るとともにアンケートを手掛かりにしながら、この取り組みの成果と課題を明らかにしたい。

## 講演

### ニッポンのアンティークしおりから見えてくるもの

豊嶋 利雄（しおり蒐集家・「中川運河しおりのアトリエ」企画・監修）

かつて、テレビもインターネットもなかった時代、新聞や雑誌などの紙媒体が企業広告の最も重要な手段の一つでした。欧米では、1880年代頃からしおりが企業宣伝の重要な一手段として盛んにつくられるようになり、日本でも1890年代（明治20年代）に入ると、しおりが宣伝媒体として流通するようになり、さらに大正時代に入ると、医療品や化粧品、食品、衣料品や文具など、さまざまな商品の宣伝媒体としてしおりが盛んに利用されるようになりました。できる限り長く手元に置いてもらいたい、より宣伝効果が高まるようにと、裏面に時間割表やカレンダーを印刷し、また中原淳一、高島華宵、露谷虹児、加藤まさをなどの当時を代表する人気挿絵画家達が起用するなど、様々な工夫が施されるようになりました。しおりとして使われることもなく大切に引き出しに長く保管され、あるいは本の中に閉じ込められたまま永い年月を経た後、突如として光を浴び、あたかもごく最近につくられたかのような状態で現代に蘇り、明治・大正・昭和の各時代の風俗、世相、物価、流行など、当時の貴重な情報を私たちに伝えてくれるようになりました。

今回は、童画から抒情画（童画と児童画、童画の系譜、絵雑誌の時代、抒情画の系譜、漫画の時代）、ニッポンのアンティークしおりから見えてくるものをお話したいと思います。「しおりは時代の写し鏡」、ノスタルジックで抒情的な「手のひらサイズのアート」の世界をお楽しみください。（一部、豊嶋利雄『ニッポンのアンティークしおり』序文より）

## 日本児童文学学会中部支部事務局からのお願い

### \*会計より\*

2023年度の支部会費2,000円が未納の方は、納入をお願いいたします。例会当日の支払いも可能です。振込をご選択される場合は、下記郵便局振込口座に、備え付けの用紙を使って振り込みをお願いいたします。休日でもATMが稼働しているときは振り込みができます。

口座番号：00550-4-52140

口座名称：日本児童文学学会中部支部

（他行からの振込みの場合は、〇五九（ゼロゴキュウ）店 当座 0052140 です。）

日本児童文学学会中部支部  
〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9  
愛知淑徳大学福祉貢献学部  
青木文美研究室気付  
電話：0561-62-4111（内線2458）